

紀要論文

執筆要項（日本語で執筆する場合）

1. 原稿には必ず表紙をつける。表紙には、論文タイトル（サブタイトル）、執筆者名、執筆者肩書（所属）、連絡先（住所、電話番号、メールアドレスのうち二つ）を記入する。
2. 原稿「本文」は、1頁目に日本語タイトル（サブタイトル）、日本語 800 字以内の抄録、日本語による 3～5 のキーワードを記載、2 頁目には英語タイトル（サブタイトル）、英語 250 語以内の Abstract、英語による 3～5 のキーワードを記載すること。3 頁目からが本文となる。
3. 公平な審査を期するため、謝辞および付記等は掲載可の判定が通知され、著者校正を行う時点で書き加える。個人的な謝辞は記載しないこと。
4. 日本語の原稿の書式（日本語）は、原則として以下の通りとする。
 - (1) 原稿は A4 判のサイズとし、横書き 40 字×40 行で作成する。
 - (2) 文末脚注機能を用いて、注を作成する。
 - (3) 注と文献リストは別々に作成する。
 - (4) 参考文献の提示は本文・注を問わず「著者名, 発行年, 頁数」とする。

例)

本文内での提示（日本語）

「状況を意味づける情況編成は、いつでも情況の再編成である」（深谷・田中, 1996, p.36）。

ただし著者名と出版年がすでに本文に組み込まれている場合は、著者名の表記は不要。

深谷と田中（1996）によれば、《意味づけ論》において「状況を意味づける情況編成は、いつでも情況の再編成である」（p.36）。

* 直接引用でない場合でも、該当箇所のページを表記すること。

(5) 日本語以外の言語を引用する場合は、必ずその日本語訳を併記すること。既訳を参照した場合は、その書誌情報を記載する。著者本人による訳文の場合はその旨を明記する。原文のみを参照した場合、既訳がある場合でも、原文の書誌情報のみを記載すればよい。

(6) 文末に参考文献一覧を提示する。記載順は「著者名、(出版年)、著作名、出版社名」とする。また著作に複数の版がある場合は、著作の初版年も表記すること。

例)

山口昌男（1975／2017）『道化の民俗学』岩波書店

ケプラー、ヨハネス（1634／1985）『ケプラーの夢』渡辺正雄、榎本恵美子訳、講談社

（7）日本語以外の文献を参照する場合は、APA マニュアルの最新版に従って記載する。また欧文の書名はイタリックにすること。

例)

Gilroy, Paul (1993) *Black Atlantic: Modernity and Double Consciousness*, Verso. (ポール・ギルロイ『ブラック・アトランティック——近代性と二重意識』上野俊哉、毛利嘉孝、鈴木慎一郎訳、月曜社)

*APA スタイルの詳細については、現在の最新版を記載している以下のページを参照のこと。

Purdue Online Writing Lab, “APA Formatting and Style Guide, 7th Edition”,

https://owl.purdue.edu/owl/research_and_citation/apa_style/apa_formatting_and_style_guide/general_format.html

（8）図表については、図表使用分の文字数を減算する。A4 版の 1/4 使用であれば日本語 400 字（英語 160 語）、1/2 使用では日本語 800 字（英語 320 語）が減算の目安となる。また、図表には「※図○、表○」あるいは「“Figure ○”, “Table ○”」と記載する。